

## 開業医における口腔顎顔面外傷(小児)の臨床的検討

三田市 大槻歯科医院 大槻 榮人<sup>1, 2, 3)</sup> (歯科医師)

【共同研究者】川上哲司<sup>3)</sup>, 川上正良<sup>3)</sup>, 高橋一也<sup>2)</sup>, 小正裕<sup>2)</sup>, 桐田忠昭<sup>3)</sup>

1) 三田市 2) 大阪歯科大学高齢者歯科学講座 3) 奈良県立医科大学口腔外科学講座

「2025年問題」が最近マスコミなどで頻繁に取りざたされています。ただ、兵庫県では一部の圏域を除き、後期高齢者数のピークは2050～55年であり、2025年はあくまで通過点です。今後30～40年間にわたり後期高齢者数は増加の一途をたどり、その数は2010年の1.4～2.4倍になることが予想されています。こういった状況になると歯科医師は施設だけでなく、病院・居宅といった様々な環境で要介護者に対する対応に迫られることになります。

また、フレイルの考え方によると通院できる高齢者がいつ要介護状態になり、訪問診療が求められてもおかしくありません。このような状況を歯科一職種だけで対応できるはずもなく、医療・介護・福祉の様々な職種による多職種連携が必要です。それに伴い歯科医師も単なる歯科治療だけでなく、他職種と情報共有するための共通言語の取得や、連携のためのマネジメント力が求められます。ここでは私の経験した訪問診療の症例を紹介します。